

不動尻山行 (2023年3月29日(水))

3月26日(日)実施として、伊藤さんから「不動尻」へミツマタを見に行くことが提案された。山の斜面一面にミツマタが咲き乱れるという。インターネットで見るとなかなかのものらしいので、是非行ってみたいと考えた。伊藤さんの計画では、「広沢寺温泉入口バス停」から「鐘ヶ岳(561m)」に登ってから不動尻へ行くというのだが、小生には山に登ることはおろか、バス停から不動尻まで歩くことも高度差があり過ぎて不可能だ、それで途中の「山神隧道」手前のゲートまでタクシー利用を認めてもらった。ところが26日は雨で断念、29日(水)に延期された。しかし皆さん都合がつかず、結局伊藤さんと陽田の2名で出かけることになった。

9時に本厚木駅改札前で待ち合わせて、タクシー乗り場に向かうと十数人の人が待っている、しかし次々にやってくるので10分ほど乗車できた。市街地を抜けて広沢寺温泉への道に入る。温泉を過ぎると道は細く、かなりの上り坂になって来た。「不動尻」へ行くのだろうか、リュックを背負った人達を追い越してゆく。30分程走って、しっかり扉の閉まった“ゲート”に到着した。料金は¥4,500円で、事前に聞いていた範囲であった。

軽く準備運動をして、さあ出発。少し登ると「山神隧道」が現れた。少し上り坂だが真っ直ぐなので向うの出口が見える、無くてよいのだが折角用意してきた懐中電灯を使って進む。トンネルを出ると、右手はるか下の方には「谷太郎川」が流れ、右後を見上げると「鐘ヶ岳」が望める。簡易舗装された“だらだら登り”の林道を進み、簡易トイレのある中間点を過ぎて、10時30分に「不動尻広場」に到着した。かなりの広さのある広場で、木製ペンキ塗りの立派なしかも新しい机・ベンチが数脚設えてある。しかも泥ンコになるの防止するため、しっかり緑色のシートが敷き詰められている。途中道の脇に数ヶ所、立て標識でこのミツマタの宣伝をしていたが、アクセスの道路は狭くすれ違いが困難なために一般車を閉鎖しているし、屋台が出ている訳でもないの、厚木市に落ちるお金は期待できないだろうにと思った。

肝心のミツマタは広場の奥へ進み、山の傾斜面に付けられたジグザグの道を登って行くと、杉木立の中にそこかしこに小群落があり、伊藤さんの前宣伝通り、全体として一大群落を形成していた。既に満開を過ぎた木もあるが、まだまだ綺麗に咲いていた。ミツマタはご存知のように、「楮、三桠、雁皮」の三大和紙の原材料である。チンチョウゲ科の灌木で、花はウズラの卵より少し大きく、球形に小花が集まって咲く。この一帯はどのようにしてできたのか気になった。昔、和紙の原料にするために植生したのか、それとも全くの自生なのだろうか。

兎に角どんどん登ってみた、下から見ると“大群落”に見えるが行ってみると、それ程でもない(全体では大群落であることは間違いない)。“(キリはあるのだが)キリが無いので”広場から高度七八拾メートル登った所から引き返した。11時半に広場に戻り、ベンチで昼食を摂った。今日は平日のためか、思ったより見に来ている人は多くなく、会った人は20人位だろうか。12時に広場を出て帰途に着く、12時40分にゲートまで戻って来た。ここからは結構急な下り坂になった。自転車で登ってくる人もいた。広沢寺温泉入口まで戻ってくると、道も緩やかになり、周りには満開の櫻が咲き乱れていた。東京より寒い分だけ満開が遅く、丁度よかったのだろう。染井吉野以外にも枝垂れ櫻や花桃、三ツ葉ツツジ、木蓮、馬酔木 などの花々が咲いていた。

13時36分に「広沢寺温泉入口バス停」に到着し、46分発のバスで本厚木駅へ戻った。まだ少し早いので、駅ビル内の「サイゼリア」でノンアルとおつまみで反省会となった。今日は快晴とはならなかったが、日差しがあり、ミツマタの花も映えて見えた。花はやはり日差しがある方が良い。4月からの予定など話では、2日(日)の「弟富

士山」はどうも天候がすっきりしないので、絶望的か。それで 9 日(日)に代案は無いだろうかとの話で、伊藤さんにご検討いただくことになった。約 1 時間後の 15 時 40 分、店を出て本厚木から快速急行に乗車して、下北沢駅で流れ解散した。

以上 陽田



ミツマタの木の枝をかき分けて進む



山の斜面に群生するミツマタ



ミツマタの花



枝垂れ櫻